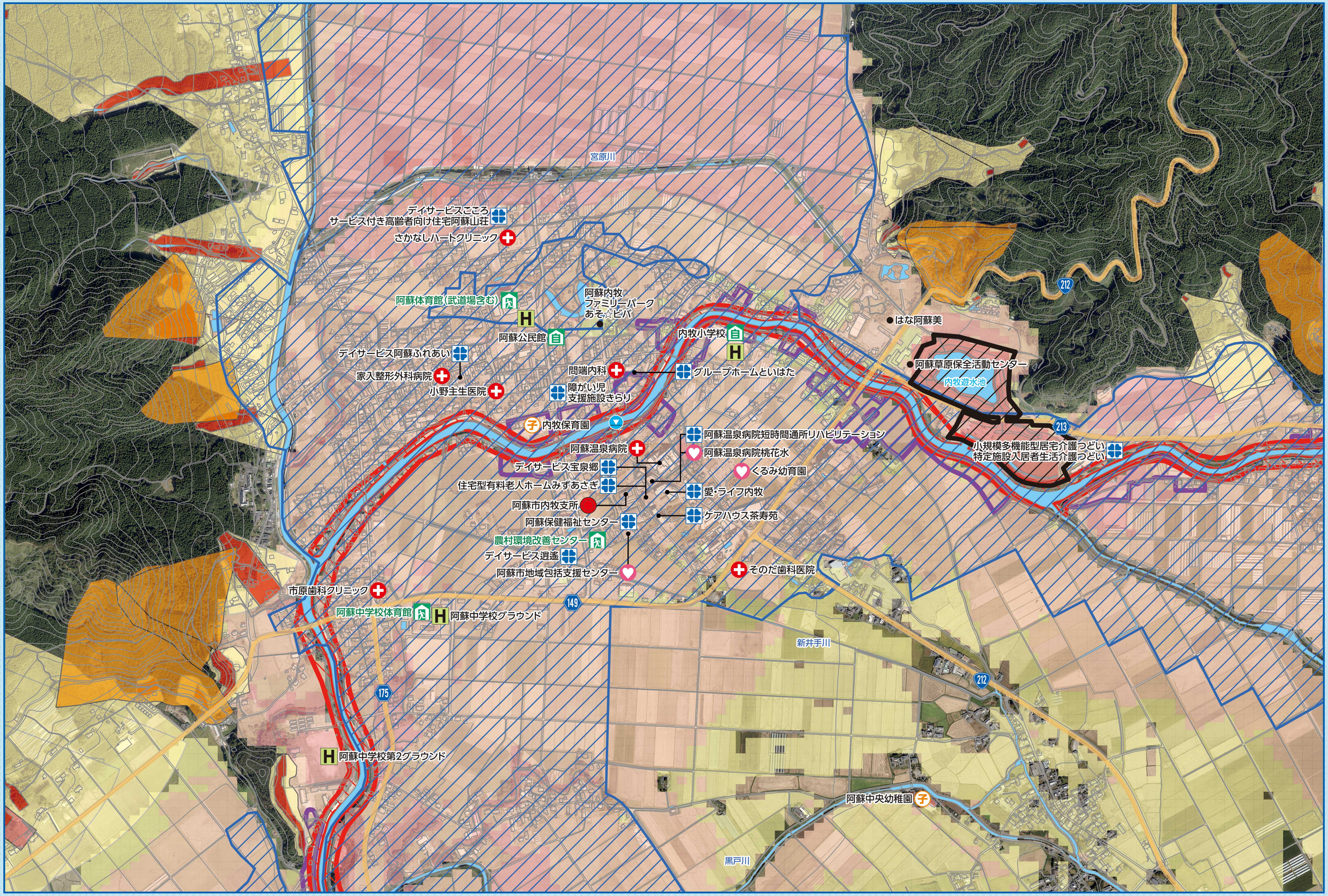
内牧 拡大図

1:10,000

0 600m
一般の人が約10分で歩ける距離の目安（600m）



防災ハザードマップ 拡大図

防災ハザードマップ 拡大図

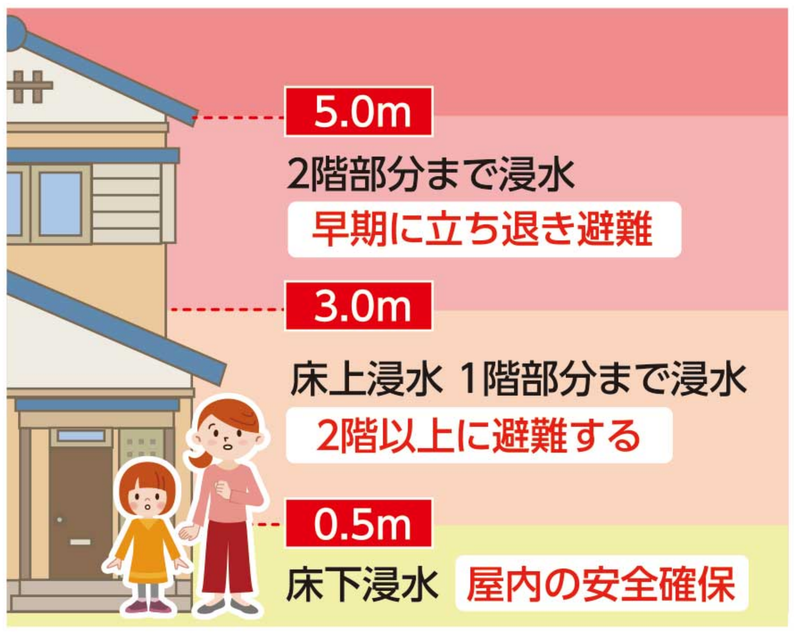
この地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の基盤地図を使用したものである。「測量法に基づく国土地理院承認（使用）R 1JHs 1449」

洪水に備えて

洪水浸水想定区域が見直されました

早期の立ち退きが必要な区域

洪水浸水想定区域（想定最大）
2階以上へ退避（洪水浸水・土砂災害）
白川水系黒川ほか（481mm／2日）
更新 白川水系黒川ほか（922mm／2日）（熊本県平成31年告示第346号）



ハザードマップは、水防法の規定により指定された区間において、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水による河川が氾濫した場合の浸水の状況を予測したものです。浸水想定区域等は、指定されていない区域でも浸水する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

浸水の深さを考慮し、早めの避難を確認しておく

- 想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。
- 地図で自分の家で想定される浸水の深さを確認し、避難の方法を考えましょう。

マップを確認 → 判断 → どこへ

0.5m未満の浸水	0.5～3m未満の浸水	3m以上の浸水
必ず	時間と安全な避難経路が確保されていれば	必ず
警戒情報に注意する	自宅の2階 危険のない近くの高い建物	浸水しない場所 （避難場所、道路、空き地、高台など）

- むやみな移動はかえって危険
- 屋内待避

- 自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる
- 垂直避難

- 安全な場所へ避難する
- 水平避難

防災その2

土砂災害に備えて

土砂災害警戒区域
（イエローゾーン）

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

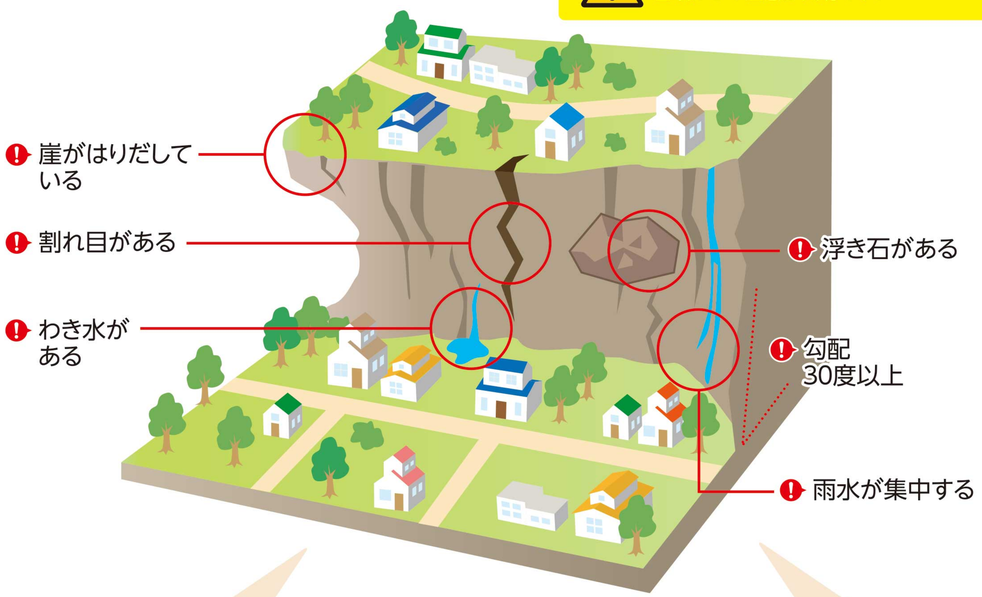
土砂災害特別警戒区域
（レッドゾーン）

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となる可能性がありますので、気象情報に十分注意してください。

こんながけには特に注意!

阿蘇市は土砂災害が発生しやすいところです。日頃からの注意が大切です。



■ハザードマップを確認し、自分の家が土砂災害の危険箇所にあるかどうかを確認しましょう。

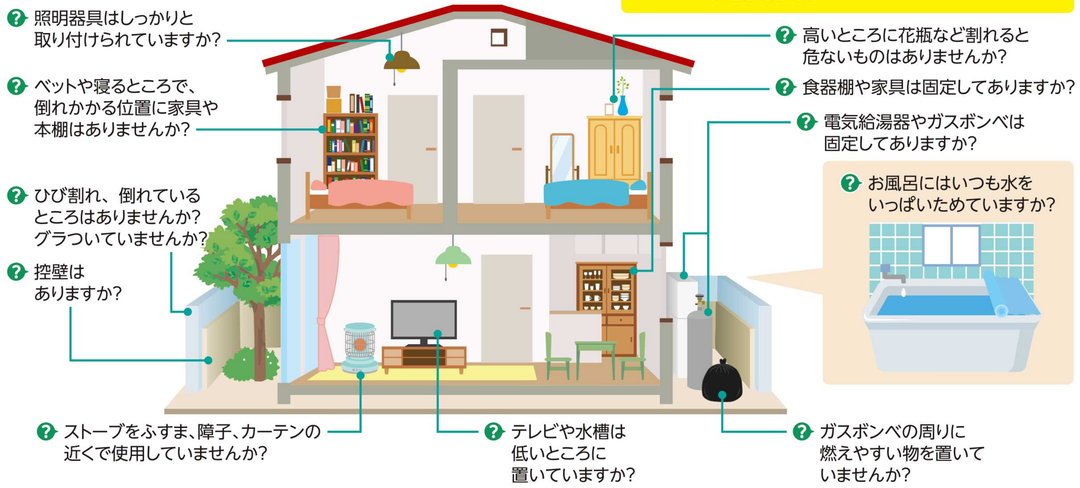
■日頃から、がけから離れた部屋や2階で過ごすようにしましょう。

防災その3

地震に備えて

我が家の点検を行いましょう

いざというときに、あわてず行動できるよう家族で普段から防災について話しあっておきましょう。



地震が起きた時どう行動したらいい?

地震発生	1～2分	3分	5分～数時間	1日～3日くらい
■落ち着いて! まずは自分の身の安全を確保しましょう	■揺れがおさまったら、火元を確認する	■靴をはき、ガラスの破片などから足を守る ■ドアや窓を開けて逃げ道を確保する	■ラジオなどで正しい情報を確認 ■隣り近所の安全を確認 ■消火・救出活動	■生活必需品は備蓄でまかなう ■災害情報、被害情報の収集 ■集団生活のルールを守る助け合いの心で!

避難の前に、もう一度確認!

■**避難する前に**
出火防止のため、ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切りましょう。

■**連絡先メモ**
連絡がとれなくなったときのために、メモなどで行き先をわかるようにしておきましょう。

■**安全に避難する**
屋外へ避難する際には、頭上や周辺に十分注意しながら避難しましょう。

防災その4

火山噴火等に備えて

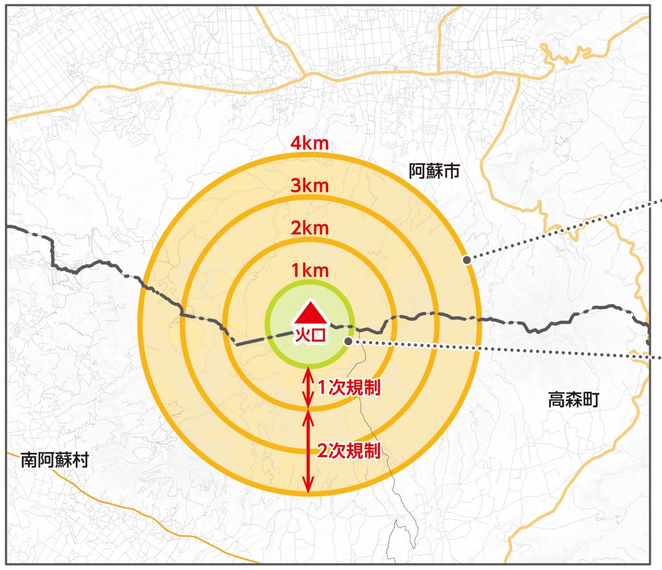
噴火警戒レベル

噴火警戒レベルは、火山活動の状況について、噴火時等にとるべき防災対応を踏まえて区分したもので、気象庁が発表します。噴火警戒レベルの変化は対応する噴火警報・噴火予報によって伝えられ、現在のレベルは気象庁のホームページに常に掲載されています。

火山情報 阿蘇山　検索

阿蘇山 噴火警戒レベルに対応した規制範囲

●噴火警戒レベルに応じて図のような防災対応が必要になります。



レベル5（避難）
危険な居住地域からの避難

レベル4（避難準備）
警戒が必要な居住地域での避難準備
要配慮者は避難等

阿蘇火山広域避難計画（熊本県）

レベル3（入山規制）
火口から概ね2kmから4km以内立入規制
活動状況により変更。○の範囲内
●中岳・高岳への登山道の立入禁止

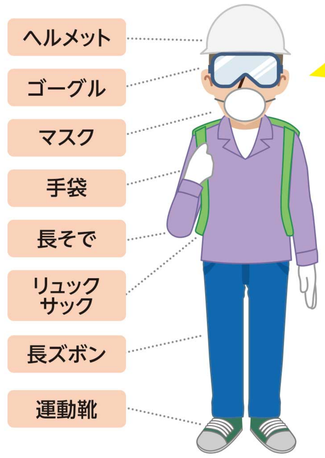
レベル2（火口周辺規制）
火口から概ね1km以内の立入規制
○の範囲内
●阿蘇山公園道路の通行止

レベル1（活火山であることに留意）
火口内等常時立入禁止

阿蘇火山防災計画（阿蘇市）

噴火が始まったら

避難時の服装



⚠ 避難路、避難場所の確認を前もって行い、避難する時は近所の人と一緒に秩序を守って、決められた場所へ避難しましょう。

気象庁が発表する火山情報に注意しましょう。

市から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

ラジオ・ニュース・新聞・市の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

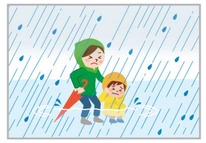
デマ・うわさに惑わされないようにしましょう。

情報を確認し、行動しましょう！

災害時にとるべき行動

防災気象情報と行動の目安

大雨などの行動の目安として、「5段階の警戒レベル」をお知らせします。市役所からの防災気象情報により、避難行動をとりましょう!!

警戒レベル	雨の降り方	気象情報［気象庁］	避難情報［阿蘇市］	住民がとるべき行動
危険度 小				災害への心がまえを高めましょう。
レベル1				
レベル2	強い雨 地面一面に水たまりができる。	注意報		避難に備え、防災ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。
レベル3	激しい雨 道路が川のようになる。	警報	避難準備・高齢者等避難開始	避難時に時間を要する人（高齢の方、障がいにより支援が必要な方）とその支援者は避難を開始しましょう。 その他の方も避難の準備を整えましょう。
レベル4	非常に激しい雨  水しぶきであたり一面が白っぽくなる。	特別警報 重大な災害の危険性が非常に高まっている場合に発表されます。	土砂災害警報情報 記録的短時間大雨情報（1時間雨量110㎜以上） 避難勧告 避難指示（緊急）	速やかに指定避難所へ避難しましょう。避難所までの移動が危険と思われる場合、近くの丈夫で高層の建物への避難や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
レベル5 大	猛烈な雨 大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。		災害発生情報	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。

地域の皆さんで声をかけあって安全・確実に避難しましょう。

災害に備える！

家庭の備蓄のすすめ 非常持出品

備蓄食品は、大きく分けて「非常食」と「日常食品」の2種類があります。

非常食

災害時の備えとして用意し
主に災害時に使用するもの
【非常食は、場面に応じて日常でも利用が可能】

日常食品

日常から使用し、かつ、
災害時にも使用するもの
【ローリングストック】

主に災害時に使用する「非常食」だけでなく、日常で使用し、災害時にも使えるものを「ローリングストック」としてバランス良く備えることが大事です。

なぜ食品の家庭備蓄が必要なの？

過去の経験によれば、災害発生からライフライン復旧まで1週間以上を要するケースが多くみられます。また、災害支援物資が3日以上到着しないことや、物流機能の停止によって、1週間はスーパーマーケットやコンビニなどで食品が手に入らないことが想定されます。
このため、**最低3日分～1週間分×人数分の食品の家庭備蓄**が望ましいといわれています。

備蓄の目安=
家族の人数×最低3日分
※できれば1週間分を備えましょう

自治体が作成するハザードマップなどを確認し、お住まいの地域の状況に応じて2週間分など多めに備えることも大切です。

家庭備蓄の例 1週間分／大人2人の場合

必需品

水 2L×6本×4箱
※1人1日およそ3L程度（飲料水+調理用水）

お好みのお茶や清涼飲料水などもあると便利！

カセットコンロ・カセットボンベ×12本
※1人1週間およそ6本程度

主食
エネルギー
炭水化物

米 2kg×2袋
※1袋消費したら1袋買い足す（1人1食75g程度）

乾麺（うどん・そば・そうめん・パスタ）
●そうめん2袋（300g/袋）●パスタ2袋（600g/袋）

カップ麺類×6個

パックご飯×6個

その他（適宜）
●牛乳 ●シリアルなど

主菜
たんぱく質

レトルト食品
●牛丼の素、カレー等18個
●パスタソース6個

缶詰（肉・魚）
●お好みのもの18缶

副菜
その他
（適宜）

日持ちする野菜類
●たまねぎ、じゃがいも等

梅干し、のり、乾燥わかめ等

調味料
●砂糖、塩、しょうゆ、めんつゆ等

インスタントみそ汁や即席スープ

野菜ジュース、果汁ジュース等

チョコレートやビスケットなどの菓子類も大事！

みんなで覚えておこう！

ハザードマップの見方

日頃から備えておくこと

❶ 自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのかを確認しておきましょう。

❷ 避難先・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難先と避難経路を、家族や地域で確認しておきましょう。
自家用車で避難する場合は、早めの避難開始が重要です。

❸ 非常持出品の準備をしておきましょう

凡例一覧

指定避難所

- 指定避難所
- 自主避難所
- その他避難場所

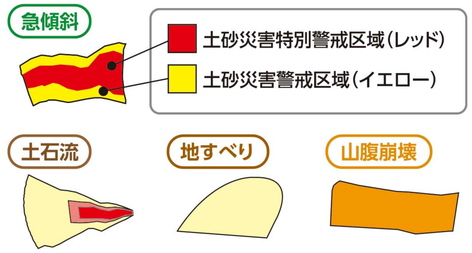
要配慮者利用施設

- 福祉施設
- 幼保・教育施設
- 保健・福祉施設
- 医療施設（病院）

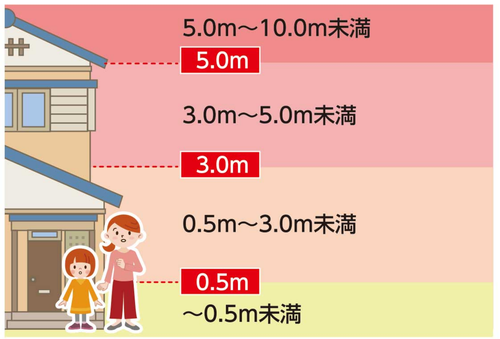
防災関連施設

- ヘリポート

土砂災害警戒区域等



洪水浸水想定区域（浸水の深さ）



- 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）
- 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
- 浸水履歴（平成24年7月12日の浸水区域）
- 火山噴火警戒
- 交通規制箇所

水防に関係する施設

- 水位観測所

その他の施設

- 市役所・支所